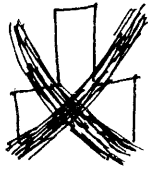


草の根ニュース No.2



大きな
焼却炉は
もういらない!

2012年7月1日

町田市政を考える会・草の根
連絡先 042-797-3604(小林)

運転開始から 30 年

老朽化の進む 焼却炉や 資源化施設

今、新たな施設の建設が求められています

際限なくごみを出し、大型の焼却炉でごみを燃やし続ける時代から

ごみの減量と資源化をめざし

エネルギーの拠点として

地域の防災の拠点として

新たな役割をもった施設として創ることが出来るのか

市民協働での議論が続けられています

*これまでの経緯

町田市の諮問を受け、2009年6月から2011年3月にかけて『廃棄物減量等推進審議会』（会長 細見 正明氏）が開かれ10年後の町田市のごみ処理のあり方について答申を出した。答申の基本理念は「町田市43万市民は、地域や地球の環境を守るために、「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を原則とし、徹底したごみの減量・資源化を図りつつ持続可能で環境負荷の少ない都市を目指すこととしている。具体的には、2009年度ごみとして処理している9万9千tを2020年までに6万tに減らす計画で、ごみとして処理する量の40%を削減することになる。また、現状の資源化率27%を54%に進めることとなる

この答申をうけ、市は2011年4月『町田市一般廃棄物資源化基本計画』（以下資源化基本計画）を策定し、資源化基本計画をもとに2011年5月、『町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会』（委員長 細見正明氏）が発足した。2020年度に新たな焼却施設、資源化施設を稼働することを目指した施設建設の内容と建設候補地の検討が始まった。また、資源化施設建設にあたっては初めて「分散化」が提案された。2012年2月16日から3月11日にかけて検討している内容についての市民との意見交換会が開催され、またパブリックコメントも募集された。現在寄せられた意見をうけ、検討委員会でさらに具体的内容が検討されている。7月末には再び市民との意見交換会が開催される予定。



平成 24 年（2012 年）第 2 回町田市議会定例会が終了しました

今回の草の根ニュースは、公明党・山下てつや議員の一般質問の内容を

お知らせします。表題は『新たな資源循環型施設整備事業におけるメタン化施設について』です

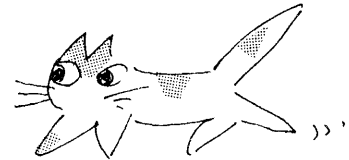
①市民から危険だとの声があるが、市の認識は ②ランニングコストが非常に高いとの声があるが、市の認識は ③環境
負荷という点での優位性について、市の認識は ④メタン化施設の利点とは何か

以上の 4 点について質問し、石坂丈一市長が答弁しました

※詳しくは、町田市議会→議会中継→議場録画中継→平成 24 年 6 月定例会→6 月 5 日録画一覧→山下てつやをご覧ください。

○山下てつや議員への

石坂丈一市長の答弁(要約)



*はじめに…

2011 年 3 月 廃棄物減量等推進審議会(細見正明会長)答申をうけ、4 月、町田市一般廃
棄物資源化基本計画をつくりました

一般廃棄物処理計画でなく、資源化計画というのは他市にないこだわりです

生ごみの資源化は 2020 年を想定しました

第 1 のプロセスは

最初に生ごみだけを集めて 3000 トンを、堆肥その他の利用をする肥料化し、家庭用生ごみ
処理機・容器、大型生ごみ処理機導入します

第 2 のプロセスは

生ごみだけを取り出して肥料化はむずかしい 19000 トンの生ごみをバイオガスエネルギー(メ
タン化)として資源化するというものです

現在稼働しているバイオガス・メタン化施設は全国 540 箇所あり、

そのうち生ごみ対象の施設は 7 箇所、建設中・計画中 5 箇所、全部で 12 箇所になります。

バイオガスは貯蔵タンクが必要です。可燃性ガスであるメタンガスを発生させ回収し利用する
施設がバイオガス・メタン化施設です

*爆発の危険性については…

国が定める「メタンガス化(生ごみメタン)施設整備マニュアル」「ごみ処理施設整備の計画・
設計要領」に基づき、対策を講じています

安全対策としては、爆発・火災防止、酸欠防止、臭気対策の義務付け、維持管理上必要な
薬品処理設備の設置日常点検、定期点検の義務付けがあります

メタンガス貯留タンクについては、「爆発火災防止対策」「漏洩ガス探知器の設置」「逆火災
防止装置及び圧力調整装置」「安全弁の設置」の義務づけがあります

内部対策だけでなく自然災害事故等外部の影響も想定し二重に対策を採る構造になってい
ます

安全対策、日常点検等により昨年地震も含め、過去国内においてガスが原因の爆発火災
等の事故はありません

リスク管理については、施設の安全性と適正な管理の方法について十分な検討と市民への
情報提供をしていきます

*ランニングコストについて…

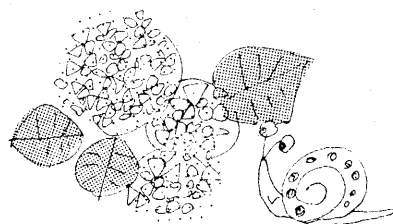
- ・国「バイオマスエネルギー活用の推進」
- ・町田市一般廃棄物資源化計画で方向性を出したバイオガス化(メタン化)施設

バイオガス化(メタン化)施設は、国も、町田市も、
家庭で処理できない生ごみの資源化策として有効な施設と考えています

バイオガス化(メタン化)施設は熱回収施設より30%維持管理、ランニングコストがかかるといわれ、自治体が建設に躊躇する理由となっています

国は「循環型社会形成推進交付金制度」という補助金に加えて
バイオガス施設での発電による売電価格について
「バイオガス等の再生可能エネルギー長期調達価格の固定化」を
検討しています。(2012年7月)

メタン発行に伴う発電や燃料化については、太陽光発電に次ぎ
高い価格設定が設定されています
太陽光発電 42円 バイオガス 40円 現状の焼却 17円



現状の焼却発電とあわせて安定した電力等の供給・売却が見込める状況となってきています。
自然エネルギーの推進に、売電価格の検討をしているのです

メタン発酵層の温度管理のためのエネルギー設備の動力用の
電力を、自ら、自立して運転できる規模で検討中です
熱回収施設とバイオガス施設をセットで施設検討しています



*環境負荷について

バイオガスエネルギーの優位性は…についてです

二酸化炭素等の温室効果ガスは主にプラスチックの焼却伴うものが大半です。

通常の可燃ごみ、1トン焼却すれば1トンのCO₂が発生し

プラスチックを1トン焼却すれば、2.6トンのCO₂が発生します

検討中のごみメタン化施設は

生ごみを発酵させることにより発生するバイオガスエネルギーを利用する施設であり

焼却による発電とは異なり、電力を発生させても、植物由来であるため、排出量にカウントされません

メタン化施設から出る発酵残渣は、堆肥化の利用に向けた調査研究の段階で、現在は堆肥化の利用が出来るという結論はありません。実績は焼却です。温室効果ガスとしての影響はほとんどありません

ごみ熱回収施設とメタン化施設を比較した発電効率

ごみ発電は蒸気の蒸発するロスが大きいため…17%、

バイオガス発電はほとんどのエネルギー回収が可能…30%以上です。

環境面で有利な施設であると考えています



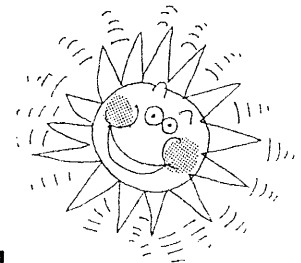
*メタン化施設の利点

町田市一般廃棄物資源化基本計画の中で生ごみの100%資源化を決めました
発生する22,000トンの生ごみのうち
3,000トンは家庭での肥料化、それを使って市内農家で生ごみ肥料の利用普及をかせ、
さらに19,000トンは生ごみのバイオガスをつかったエネルギー化を進めます

生ごみ処理機の家での自家処理を普及させても、22,000トンを全て農業利用するという
のは現状では難しい。そういうことから計画では3,000トンとしました。残りの19,000トン、
85%を今の発電に使おうということにしました

メタンガスの利用形態としては、

- 発電・・・焼却して発電するよりも30%という高効率のエネルギー回収ができる
- 天然ガスとしてCNGとして燃料にすることが可能・・・たとえばバスの燃料となる
- 焼却施設・熱回収施設からのエネルギーとしての電気と、バイオガス施設からの
電気を合わせて発電をすることにより自立型の、東京電力からの買うほうの電力
が無くともエネルギーセンターとしての使える利点があると考えます。



町田全市とはいきませんが、ある一定程度のエリアであれば、そこがエネルギーセンターとして
供給拠点となるという利点があると考えています

*山下てつや議員の再質問

危険ではないのかと言う市民感情があるが、日本の大型プラントの安全性の実績は認識
しています。消防法をはじめ、様々な安全性を確保するための側面も市民に説明していくこと
も大切ではないかと考えます。



「循環型社会形成推進交付制度」は、大臣官房直結で行われているので、簡単に変わると言
うものではないと思うし、今後発展して行く様な気がします。

発生した熱を捨てている現状がある。貯蔵が出来るエネルギーの利点は、防災・災害時のC
NG(天然ガス)・バイオトイレの利用も可能。単なる迷惑施設ではなく、防災対応も含めた町
づくりの接点としての価値があると思います。

昨年の災害を体験し、確かにランニングコストは高いけれど、電力の復旧に53日要したとい
うことも考えると、エネルギーセンターも含めた有効利用が出来るのであればと思います。

脱原発の動きの中で、シェールガスも含め、ガスの黄金時代が来るのではとされています。
コストは高いが貯蔵出来ることも考慮し、公共としての役割も議論してほしいと考えます。

*市長の再答弁

議員ご指摘の様に、昨年この答申が決まったところに震災がありました。
エネルギーセンターも一つの役割かと思えます。今日のバイオガス化の件も、コストも含め地
域に受け入れられる施設を目指していきたいと思えます。

○町田市政を考える会・草の根 ホームページ

<http://www.machida-kusanone.com/index.htm>